イベント

■世界報道写真展

南ジャカルタのオランダ大使館内の文化施設「エラスムス・フイス」で20日（土）～3月12日（土）、世界報道写真展2015が開かれる。

ドキュメンタリー、報道写真の展覧会。オランダ・アムステルダムで発足した世界報道写真財団によるコンテストの入賞作品が展示される。月曜～木曜は午前9時～午後4時、金曜は午前9時～午後2時、土曜は午前9時～午後1時。

詳細はerasmushuis.nlmission.orgで。

■愛してるJAPAN

東ジャワ州スラバヤの「トゥンジュンガン・プラザ3」6階のコンベンションホールで26日（金）～28日（日）、日本をテーマにしたバザー「愛してるJAPAN」が開かれる。

午前10時～午後10時。料理やファッションなど100以上のブースが出展し、日本を体感できるイベントになっている。

詳細はyooying.com/ontheweekendで。

■映画「ザ・レブナント」

19世紀の米国を舞台に、仲間に裏切られ、荒野に見捨てられた男の復讐(ふくしゅう)を描いた映画「ザ・レブナント」が公開中だ。

レオナルド・ディカプリオとトム・ハーディが共演。映画「バードマン　あるいは（無知がもたらす予期せぬ奇跡）」でアカデミー賞4部門を受賞したレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ監督の最新作。

詳細はwww.21cineplex.comやwww.cgvblitz.comで。

■ボゴールで服飾イベント

西ジャワ州ボゴールで3月3日（木）～6日（日）、最大規模の服飾イベント「ボゴール・クロージング・フェスト」が開かれる。

ローカルブランドが多数出展し、最大7割引きで購入できる。バンド演奏やフードトラックも楽しめる。

詳細はホットライン（携帯0813・1513・0068）まで。

閉店したカフェやカラオケが立ち並ぶカリジョドの裏路地＝17日午後5時ごろ

きょう自主退去勧告

カリジョド住民に州政府

ジャカルタ特別州のアホック知事は17日、緑地化を計画している北・西ジャカルタ区の置屋街「カリジョド」の住民らに対し、18日から州政府が1回目の自主退去勧告を出すことを明らかにした。

アホック知事によると、カリジョドは国有地で、住民たちが違法に家を建ててきた。アホック知事は「住民たちが自主的に住居を撤去してほしい」とコメントした。勧告は計3回行う予定で、住民たちが立ち退きに応じなかった場合は、警察や国軍と協力し強制撤去を実施するという。

また、カフェが立ち並ぶアンケ川沿いのクパンドゥアン2通りなどを閉鎖し、一般車両や歩行者の同地区の立ち入りを禁止する。同地の住民は住民登録証（KTP）があれば出入りできるという。

同地区内でワルン（屋台）を営む40代の男性によると、撤去の周知活動で地区内のカフェなど娯楽施設のほとんどが閉鎖。働いていた女性たちのほとんどが職を失い、それぞれの故郷に帰ったという。男性は「娯楽施設が閉店して、私の店も売り上げが落ちる一方。故郷の西ジャワ州に帰ろうと思う」と話した。

（山本康行、写真も）

人と人をつなぐ図書館

スラバヤ　C2Oライブラリー

東ジャワ州スラバヤ市のドクター・チプト通りの閑静な住宅街に5千冊、千本の映画を所蔵する図書館「C2O（シー・ツー・オー）ライブラリー・アンド・コラブティブ」がある。キャスリーン・アザリさん（34）が開いた図書館で、知識や情報、意見を共有・交換し合う場として「人と人」をつなぐ場所になっている。

（毛利春香、写真も）

入り口で受付をするユリさん。本や雑貨なども販売している

インドネシアにある公共図書館は数が限られ、交通の便もよくないだけでなく、開館時間は夕方までで、週末には閉館するため、なかなか気軽に利用できない。一方、個人で本を保管している人が多いが、読んだ後は再読されることなく放置され、本が痛んでしまうばかりだという。そこでキャスリーンさんは、半年間で友人や知人、学生から2千冊の本を集め、2008年にスラバヤでC2Oを開いた。

名前の由来は、最初に開館したドクター・チプト通り20番の住所と、2人が出会い「C（see―会う）」、「Ow」と驚くような発見があるようにとの意味が込められている。

キャスリーンさんは現在、シンガポールの東南アジア研究所（ISEAS）に在籍。同地とインドネシアを行き来する日々を送る。

本がずらりと並ぶ1階で、一冊を手に取るブディマンさん

2階建てのC2Oにはインドネシア各地や海外から学生や社会人、政府関係者、建築家、音楽家、デザイナー、作家などさまざまな人が集う。1階には歴史や文化、文学、デザインに関する本を中心にインドネシア語と英語の本がずらりと並ぶ。イベントを開くスペースやキッチンがあり、2階にもフリースペースやスクリーンを完備。C2Oでは会員制度があるほか、インターネットでの情報発信、雑誌や本の発刊、ワークショップやセミナー、イベントなどを開いている。

デザイナーでC2O会員のアンドリュー・ブディマンさん（32）は「図書館は皆が集まって知識や情報を共有し合える場所。C2Oでは多様性を大切にしており、職業や年齢、性別、国籍などにとらわれることなくさまざまな人が集い、人と人をつなげる役割を担っている」と話す。

C2Oではスラバヤの情報発信や、「町づくり」についても話し合われている。同地はキャサリーンさんの出身地。インドネシア第2の都市と言われているが、認知度が低く町の魅力が知られていないことが実情だという。「本当はヒンドゥー教や仏教の寺院、ジャワの建築物、山など魅力がたくさんある。C2Oでは、表面からは見えない本当のスラバヤをより知ってもらえるよう、皆で協力しながら情報を発信している」。

活動の一つで、スラバヤ市内を歩いて探索する「マニック・ストリート・ウオーカーズ」では、海外観光客からの参加者が増えているという。イベント活動への参加だけでなく、アットホームな雰囲気のC2Oは、本好きが立ち寄るのにもおすすめ。入館は無料で午前11時～午後9時まで。

蚊のいない環境へ

関西ペイントがWS

関西ペイント（本社・大阪市）現地法人カンサイ・プラカルサ・コーティングス（KPC）は17日、蚊のいない快適な生活環境づくりをテーマに研究者や建築家を招き、ワークショップ（WS）を開いた。報道関係者約30人が参加した。

インドネシア大学薬学部で熱帯感染症を研究するエルニ・ジュウィタ・ネルワンさんは、患者数が増加しているデング熱やジカ熱を媒介する蚊について講演。樹液などの糖分が主食で、暗所・きれいな水場を好むなどの習性を解説し「壁に衣服を掛けて陰を作らないように」と注意した。

蚊よけ塗料について解説するKPC建築担当課長のエリザベス・ストリスノさん

建築家のリリ・ノフリアンシャさんは「風通しが良い場所を蚊は嫌う。天窓を取り入れ、暗い所を少なくするように設計することが大切」と話した。

KPCのエリザベス・ストリスノ建築担当課長は内装の塗装に蚊よけ塗料「カンサイ・アンチ・モスキート」を提案。南アフリカの現法が開発し、マレーシアやミャンマーでも販売。インドネシアでは昨年12月に発売された。同製品に含まれるピレスロイド系薬剤は、蚊やハエなどを防ぐ効果がある。同社のモニター調査によると、塗布した壁に蚊が近づかなくなる効果も認められ、蚊に刺される回数が減ったという。

KPCの井原恭伸販売・マーケティング部長は「快適な生活環境を提供する解決方法を、さまざまな視点から提案していきたい。それがデング熱やジカ熱の対策にもつながれば幸い」と語った。

（中島昭浩、写真も）

いつもヤクルトをご愛飲いただき、ありがとうございます。
おかげ様でインドネシア ヤクルトは創業25周年を迎えることが出来ました。

Yakult INDONESIA 25
Sehat & bahagia bersama Yakult

1991年にジャカルタから販売を始め、現在では1日あたり4百万人の方に愛飲していただいております。
これからも1本1本真心を込めて作ったヤクルトをインドネシア全土にお届けし、皆様のお腹の健康をお守りします。
今後ともご愛飲の程よろしくお願いいたします。

PT. Yakult Indonesia Persada　Plaza PP 7th Floor, Jl.T.B. Simatupang No.57, Jakarta 13760
Tel : (021) 8778 2138　|　お問い合わせ: yipjkt@yakult.co.id【日本語可】